

広島南道路建設 促進に関する要望書

広島南道路建設促進期成同盟会

全国的に人口減少・少子高齢化社会が到来する中にあって、広島広域都市圏域の経済を活性化し、自律的で持続的な発展を図るためにには、ヒト・モノ・カネ・情報の循環を基調とする「ローカル経済圏」を構築する必要があります。

このため、昨年3月には広島市と圏域の23市町との間で、連携中枢都市圏形成に係る連携協約をそれぞれ締結し、「誰もが住み続けたい、住んでみたい」都市圏の形成に向け、圏域内の交流・連携の一層の強化を図っているところであり、圏域経済の活性化と圏域内人口200万人超の維持を目指す「200万人広島都市圏構想」の実現のため、圏域内の広域幹線道路ネットワークの充実・強化を図ることがますます求められています。

広島湾の臨海地域は、東部流通業務団地、西部流通業務団地、廿日市木材工業団地などの埋立事業をはじめとする開発事業等により街づくりや流通拠点づくりなどが進み、関係市町における産業基盤は、今後、飛躍的な発展を遂げることが期待されており、広島南道路の整備は緊急かつ不可欠なものになっています。

広島南道路は、東は東広島バイパス、広島呉道路、西は広島岩国道路と接続し、安芸郡海田町から坂町、広島市を経て廿日市市に至る主要幹線道路として、臨海地域を有機的に連絡し、沿道の環境改善及び地域の開発並びに経済の発展に大きく貢献する重要な道路であるとともに、広島都市圏の中心部に集中する交通を円滑に処理する自動車専用道路網の一部を形成する路線でもあります。

このような中、昭和63年11月に海田～宇品間が、平成9年5月に宇品～廿日市間が都市計画決定され、国、広島市等が一体となって着実に事業の推進が図られています。

これまで、平面街路部においては平成14年10月に宇品地区、平成22年4月に出島地区～吉島地区間（元安川渡河部橋りょう除く）、平成26年3月に吉島地区～観音地区間が供用開始され、また、指定都市高速道路等の自動車専用道路部においては平成12年3月に仁保ジャンクション～宇品出入路間、平成22年4月に宇品出入路～吉島出入路間、平成26年3月に吉島出入路～商工センター出入路間が供用開始されるなど、御当局の取り組みに対し心から感謝いたします。

このように形成されつつある自動車専用道路ネットワークを活かし、物流の効率化が図られているほか、沿線への大型店舗の出店が促進されています。

さらに、沿線の臨海部は、大型クルーズ船の寄港地となっており、広域観光を支える基盤としての役割がますます期待されています。

今後も広島南道路の早期機能発揮に向けて、地元経済界と関係自治体が総力を結集し、強固な連携のもと事業が円滑に進むよう取り組んでまいりますので、国におかれましては、明神高架橋や元安川渡河部橋りょうなど、事業化区間の着実な事業展開を図られるとともに、未事業化区間である商工センター四丁目～廿日市インターチェンジ間の整備方針を決定していただき、**広島南道路全線の早期完成を図られるよう、よろしくお願ひいたします。**

このうち、商工センター四丁目～木材港西間では、広島南道路の平面街路部を成す臨港道路の4車線化が進んでいますが、広域幹線道路ネットワークの充実・強化を一層図るためにも、平面街路部を併設しない高架部のみの区間となっている、**木材港西～廿日市インターチェンジ間の優先的な整備をお願いいたします。**

平成 29 年 月 日

広島南道路建設促進期成同盟会

会長 広島市長 松 井 一 實



広島南道路建設促進期成同盟会会員

会長	広島市長	松井一實
副会長	廿日市市長	眞野勝弘
監事	海田町長	西田祐三
〃	坂町長	吉田隆行
会員	広島市議会議長	永田雅紀
〃	廿日市市議会議長	仁井田和之
〃	海田町議会議長	桑原公治
〃	坂町議会議長	川本英輔
〃	(一社)中国経済連合会会長	苅田知英
〃	広島商工会議所会頭	深山英樹
〃	廿日市商工会議所会頭	細川匡
〃	広島安芸商工会会長	吉田栄二
〃	広島経済同友会代表幹事	池田晃治
〃	広島県経営者協会会長	西川正洋
〃	広島商工センター 地域経済サミット会長	伊藤學人

(順不同)

広島南道路

国土交通省広島地方整備局

